Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-04

<雑録>獨逸ノ軍費ト軍事公債(1)

津村, 秀松

(Citation)
經濟學商業學國民經濟雜誌,22(6):1011-1019

(Issue Date)
1917-06

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052723

雜　錄

獨逸ノ軍費ト軍事公債（一）

法學博士　津村秀松

一

開戰以來、獨逸ハ既ニ幾何ノ戰費ヲ要求シタカトイフニ、本年二月二十三日新ニ百五十億馬克ノ軍事費支出案ヲ帝國議會ニ提出シテ其協贊ヲ經タノヲ最後トシテ、前後通ジテ八回ニ亙リ、其ノ高合計七百九十三億四千二百萬馬克ニ達シテ居ル。今其ノ內譯ヲ表示スルト大要左ノ如クデアル。

獨逸ノ戰費要求額

一九一四年度			
第一回	一九一四年八月四日要求	五、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇	馬克
第二回	同　十二月三日要求	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	
一九一五年度			
第三回	一九一五年三月二十二日要求	一〇、〇四二、〇〇〇、〇〇〇	
第四回	同　八月三十一日要求	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	
第五回	同　十二月二十四日要求	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	
一九一六年度			
第六回	一九一六年六月七日要求	一二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	

第七回	同	十月二十八日要求	一二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
第八回		一九一七年二月二十三日要求	一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
合計			七九、三四二、〇〇〇、〇〇〇

此内第八回ノ戰費要求額百五十億馬克ハ、大體本年ノ四月カラ八月マデノ戰費ヲ支辨スルモノデアルカラ、遠カラズ復第九回ノ戰費要求ヲ見ルベキ筈デアル。

ソレハ兎ニ角、獨逸ガ既ニ今日マデニ消費シ若クハ將ニ消費シ盡サントスル戰費ガ七百九十億馬克ニ達スルトイフコトハ、寔ニ驚クベキ事實デアル。ガ之ニ就テ、昨年十月、前記第七回ノ戰費要求ニ方ツテ、此國ノ藏相レーデルン伯ガ議會ニ於テ述ベタトコロニヨルト、「諸交戰國ノ今日マデノ戰費ハ約二千五百億馬克デ、此内、獨逸及ビ其ノ與國ノ消費シタルトコロハ其ノ三分ノ一デ、獨逸ノミノ消費ハ其ノ五分ノ一デ、卽チ五百二十億馬克（前記第六回迄ノ戰費要求額總計）ニ過ギナイ」ノデアル。ソレニシテモ獨逸ノ戰費ハ次第ニ增加シテ、開戰當初ノ會計年度（自一九一四年八月至一九一五年三月）ニ於ケル戰費ハ平均一箇月十二億八千五百馬克デアツタノガ、此當時（一九一六年十月）一箇月ノ戰費既ニ二十一億八千七百萬馬克ニ達スルニ至ツタコトハ、是レ亦前記ノ藏相ノ演說中ニ述ベテ居ラレルトコロデアル。ソレガ今日デハ更ニ一層戰費ノ膨脹デ、一箇月約三十億馬克、一日約一億馬克ノ割合ニナツテ居ル。今之ヲ邦貨ニ換算スレバ、一日五千萬圓ノ割合デ、日露戰爭ニ際スル我國ノ戰費ノ約二十倍ニ當ル金額トナルノデアル。

二

扨テ、獨逸ハ是レ丈ケノ戰費ヲ如何ニシテ支辨シタカトイフニ、大體ノ遣方ハ英吉利ヲ初メ他ノ

諸交戰國ト大同小異デアツテ、就中佛蘭西トハ最モヨク其ノ戰費調達法ヲ等フシテ居ル。尤モ獨逸ハ開戰當初ノ動員費其ノ他ノ一九一四年度ノ國庫剩餘金二億一千九百萬馬克及ビ彼ノ有名ナルスパンタウノ「ユリウス」寶塔ノ中ニ貯藏セル戰爭準備金卽チ一八七一年十一月十一日ノ法律ニ基ク帝國軍事資金一億二千萬馬克竝ニ今回ノ戰爭ヲ豫期シテノ準備行爲デアツタトシテ著聞スル一九一三年七月三日ノ幣制改革法（新ニ少額紙幣ヲ發行シテ金貨八千五百萬馬銀貨三千五百馬克ヲ回收貯蓄スルニ至ツタ法律）ニ基ク帝國軍事資金一億二千萬馬克等ニ求メタガ、此種ノ資金ハ自カラ限リアルモノデ、今回ノ如キ大戰ニ就テノ巨額ナル戰費ニ對シテハ誠ニ九牛ノ一毛モ啻ナラザルモノデアル。又其後ノ戰費ノ一部ハ、米國公債及ビ瑞典銀行ヨリノ借入金ヤ、白耳義ニ於ケル占領地賦課金ニモ依ツタノデアルガ、是亦大體ニ於テ數フルニ足ラヌモノデアル。ソコデ、戰費ノ大部分ハ大體帝國銀行ヨリノ借入金ト、軍事公債ノ募集ノ二途デアツタ。卽チ開戰當初ノ二箇月ハ、專ラ帝國銀行ヨリノ借入金デ支辨シタガ、其ノ後此借入金ノ高ガアマリ膨脹シテ來タモノダカラ、其年ノ九月ニ第一回ノ軍事公債ヲ募集シテ、其ノ手取金デ以テ、借金ヲ銀行ニ返シ殘金ガ無クナルト、又再ビ銀行カラ借入ヲシテ、ソレガ多クナルト、更ニ又第二回ノ募債ニ着手スルトイフ風ナ遣方ヲ繰返シテ、今ニ至ツテ居ルノデアル。

然ラバ、斯ノ如クシテ繰返サレタ軍事公債ノ募集ガ、既ニ幾回ニナツテ居ルカトイフト、前後通ジテ六回デ、其ノ金額ガ總計五百九十七億五千六百萬馬克ニ上ツテ居ル。今其ノ內譯ヲ示ストイフト大要左ノ如キモノトナルノデアル。

獨逸ノ軍事公債

回數	種類	據置及償還期限	利率	發行價格	募集額	應募額
第一回（一九一四年九月）	短期公債（國庫債券） 長期公債（帝國公債）	一九一七年迄四箇年據置一九二〇年迄二償還 一九二四年迄十箇年據置爾後隨時償還	五分 五分	九七・五 九七・五	百萬馬克 一〇〇〇 無制限	百萬馬克 四、四六〇
第二回（一九一五年二月）	短期公債（國庫債券） 長期公債（帝國公債）	一九二〇年迄六箇年據置一九二三年迄二償還 一九二四年迄九箇年據置爾後隨時償還	五分 五分	九八・五 九八・五	無制限 無制限	九、〇六〇
第三回（一九一五年九月）	（長期公債（帝國公債）	一九二四年迄九箇年據置爾後隨時償還	五分	九九・〇	無制限）	三、一〇一
第四回（一九一六年三月）	短期公債（國庫債券） 長期公債（帝國公債）	一九二二年迄七箇年據置一九三二年迄二償還 一九二四年迄據置爾後隨時償還	四分半 五分	九五・〇 九八・五	無制限 無制限	一〇、七一二
第五回（一九一六年九月）	短期公債（國庫債券） 長期公債（帝國公債）	一九二二年迄據置爾後一九三二年迄二償還 一九二四年迄據置爾後隨時償還	四分半 五分	九五・〇 九八・〇	無制限 無制限	一〇、六五三
第六回（一九一七年四月）	（未詳）				無制限	三、七一〇
合計						九九、七五六

三

次ニ是レ丈ケノ公債ヲ募集スルニ方ツテ如何ナル募集成績ヲ示シタカトイフニ、之ニ就テハ、大分面白イ統計的報告ガ、我ガ在外大使館ノ手ニヨツテ傳ヘラレテ居ル。尤モ此報告ハ第五回ノ軍事公債募集マデノ調べデアルガ、試ニ其ノ内二三ヲ引用スルト、先ヅ第一ニ、前後通ジテ五回ノ募集成績中、應募者ノ數ヲ應募金額ノ高ニ應ジテ類別シテ見ルト、左ノ如キモノガアル。

軍事公債應募者數

馬克	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
一〇〇以下	三三、二二三人	四五、二二三人	九八四、三九八人	二四〇、六二八人	一、九四〇、八四人

三〇〇以上	五〇〇	二四一八〇四	五八一四七〇	八五八二五九	九六七九九九	六八一〇三七
六〇〇以上	一〇〇〇	四五三一四三	六六〇七六六	九一八五九五	八八五九四一	六〇五四九四
一〇〇〇以上	二〇〇〇		四一八八六一	五三〇一七六	四六八七二四	三〇一八六三
二〇〇〇以上	五〇〇〇	一五七一五九一	三六一四五九	四二三六三六	三四七七三五	二四五八七三
五〇〇〇以上	一〇〇〇〇	五六四三八	一三〇九〇三	一四七五九三	一二三九二七	九三一八九
一〇〇〇〇以上	二〇〇〇〇	一九三一三	四六一〇五	五三四四五	四二一二九	四〇五七一
二〇〇〇〇以上	五〇〇〇〇	一一五八四	二六四〇七	三三八四〇	三〇三六一	二八五〇〇
五〇〇〇〇以上	一〇〇〇〇〇	三六二九	七一四三一	一〇〇九〇	九一〇〇	九七四八
一〇〇〇〇〇以上	二〇〇〇〇〇	二〇五〇	四三六一	七〇七四	六八〇八	七八七〇
五〇〇〇〇〇以上	五〇〇〇〇〇	五六一	五三八	八三一	七六〇	一〇三一
一〇〇〇〇〇〇以上	一〇〇〇〇〇〇	二一〇	三三五	五三〇	五七四	七二五
合計		一一七一二五	二六九一〇六〇	三九六六四一八	五二九六四五	三八〇九九七六

應募人員ハ第一回ヨリモ第二回、第二回ヨリモ第三回ト順次倍加シテ來ッテ、第四回ニ至ッテ、正ニ其ノ絶頂ニ達シテ居ル。卽チ第四回ノ軍事公債應募人員ハ五百二十八萬人デ、獨逸ノ人口ヲ六千五百萬トスレバ、此際ノ應募者ハ十二人毎ニ一人ノ割合デ、一家平均四人ノ家族トスレバ、三戸ニ一戸ノ應募アッタトイフ譯ニナル、此戰爭ニ對スル獨逸國民全體ノ意氣込ノ如何ニ旺盛デアルカハ、此一事ニ就テモ、容易ニ知ルヲ得ルノデアルガ。然シ、ソレハ第四回ノ軍事公債募集トイフ昨年ノ三月ノコトデ、半年後ナル昨年ノ九月ニ第五回ノ軍事公債ヲ全ク同一ノ條件（唯公債ノ發行價格ガ第四回ニハ九八・〇トナッタ丈ケノ相違アルニ過ギヌ）デ、又全ク同樣ニ募集額ヲ限定セズシテ無限ニ募集シタトコロ、應募金額ニハ大シタ變化ハナカッタガ、應募人員ハ、五百二十八萬カラ三百八十萬ニ激減スルニ至ッタノハ、注目スベキ現象デアル。

更ニ這般ノ消息ヲ明カニスル爲メニ、應募人員ニ就テノ割合表ヲモ引用シテ見ルト、左ノ如キモノガアル。

軍事公債應募人員ノ割合

	一マルク乃至五百マルク	五百マルク乃至一萬マルク	一萬マルク乃至十萬マルク	十萬マルク以上	合計
第一回	三三%	三六二%	二三一%	三七四%	一、〇〇〇
第二回	三六	四一四	二五六	二九四	一、〇〇〇
第三回	四一	三七五	二三八	三四六	一、〇〇〇
第四回	五七	三四九	二二二	三七二	一、〇〇〇
第五回	四三	二五八	二二九	四七一	一、〇〇〇

是ニ由テ之ヲ觀ルト、第五回ニ至ツテ激減スルニ至ツタ人數ハ、一口一萬馬克以下ノ應募者ニアルノデ、殊ニ一口一馬克乃至百馬克トイフ小口ノ應募者ニ於テ最モ著シキ減少ヲ示シテ居ルノデアル。一口十萬馬克以上ノ大口ノ應募者ニ至ツテハ、第五回ニ於テ却テ激增シテ居ルノデアル。シテ見ルト、戰爭ガ永引クニ連レ、戰費ガ增加シ行クニ連レ、軍需品其ノ他ノ引受等デ資本家階級ニハ益々應募ノ餘力ヲ生ズルニ至ルガ、下等社會ニナルト、賃銀收入等ノ增加ハアツテモ、同時ニソレ以上ナル一般物價ノ騰貴ヲ見ルコトガ、彼等ヲシテ次第ニ餘力ナカラシムルニ至ルノデハナカラウカ。

四

然ラバ、次ニ應募金額ニ就テ、如何ナル結果ヲ示シタカトイフト、之ニ就テモ亦次記ノ如キ詳細ナル統計ガ報告サレテ居ル。

軍事公債應募金額　（單位百萬マルク）

	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
二〇〇以下（マルク）	三六	七一	一三〇	二〇一	五四三
三〇〇以上			三六九	四〇七	二九三
五〇〇	一一一	二五四			
六〇〇以上	五八七	六〇四	八四四	七九四	五五二
一、〇〇〇		七三三	九二八	七九二	五二〇
二、〇〇〇以上	五七九	一、三五四	一、五六三	一、二四七	九一一
五、〇〇〇	四五〇	一、〇五七	一、二〇二	九〇七	七六八
一〇、〇〇〇以上	三〇七	七四五	八五八	六六六	六五一
二〇、〇〇〇以上	四一〇	九二六	一、一六七	九八〇	九八二
五〇、〇〇〇以上	三一五	六四八	八五〇	七三四	八一〇
一〇〇、〇〇〇以上	五〇九	一、〇六六	一、七六六	一、五三一	一、七一〇
五〇〇、〇〇〇以上	二八七	四四〇	六九五	六四一	八五三
一、〇〇〇、〇〇〇以上	八六九	一、一六二	一、七二九	一、八一二	二、四四八
合計	四、四六〇	九、〇六〇	一二、一〇一	一〇、七一二	一〇、六五二
戰場及海外應募金額ヲ加ヘタル合計	四、四八一	九、一〇六	一二、一六三	一〇、七六八	—

獨逸ニ於テハ、第一回ノ軍事公債募集ニ際シ、國庫債券丈ケヲ募集額十億馬克ト限定シタガ、ソレヲ除ケバ、毎回トモ一切募集額ヲ限定シナイノデアル。然ルニ募集ノ成績ヲ見ルト、前表ノ如ク、第一回ヨリハ第二回、第二回ヨリハ第三回ト、次第ニ應募高ヲ增加シ來ッタガ、遂ニ第四回ニ入ッテカラハ、第四回第五回ト引續キ此趨勢ニ一頓挫ヲ起シテ居ル。尤モ募集ノ條件ニハ多少ノ變化ガアル卽チ長期公債ノ方ハ初メカラ常ニ利率五分ト一定シテ居ルガ、短期公債タル國庫債券ノ方ハ第三回マデハ五分デ、第四回第五回ハ四分五厘ニ減ジテ居ル。ガ然シ、之ト同時ニ、國庫債券ノ發行價格ノ方ハ、第一回ニ九十七半、第二回ニ九十八半デアッタノヲ、第四回ニハ九十八半、第五回ニハ九

十八ト引上ゲテ居ル。ダカラ、國庫債券ノ利廻リハ、第一回ノ分五分六厘四毛、第二回ノ分五分二厘九毛、第三回ノ分五分一厘五毛ト次第ニ下ツテ居ルガ、第四回及ビ第五回ニ至ツテハ、ソレガ再ビ五分一厘七毛ニ上ツテ居ルノデアル。且ツ夫レ、公債ノ方ハ、利率ニ變化ナイニ拘ラズ、發行價格ノ方ダケガ、第三回ノ九十九ヲ頂上トシテ、爾來第四回ニハ九十八半、第五回ニハ九十八ト順次引キ下ゲテ居ルノデアルカラ、利廻リハ第一回ノ五分三厘八毛、第二回ノ分五分二厘四毛、第三回ノ分五分一厘五毛ト順次下向シテ居ルガ第四回ノ分ニ至ツテハ、ソレガ忽チ五分二厘六毛ニ上リ、更ニ第五回ノ分ニ至ツテハ、五分三厘五毛トマデ上ツテ居ルノデアル。シテ見ルト、軍事公債ノ利率ヲ徹頭徹尾五分ニ据置テモ、毎回充分ノ應募ガアルトイフ成績ヲ以テ、英吉利ノ如ク次第ニ軍事公債ノ利率ヲ引上グルモノニ比シ、遙ニ財力ノ强固ヲ示スモノデアルトイフ獨逸藏相ノ傲語モ、アマリ當テニハナラヌノデアル。

又前表ニヨルト、應募人員ニ就テノ如キ現象ガ、應募金額ニ就テモ窺ハレル。卽チ大口ノ應募金額ハ回ヲ重ヌルニ從フテ增加シ來ツテ居ルニ拘ラズ、小口ノ應募金額ニ至ツテハ、第三回又ハ第四回以後ニ於テ、俄然急激ナル減少ヲ告ゲテ居ル。此現象ヲ明カニスル爲メニ、今一應應募金額ノ類別ヲ少フシタル統計表ヲ左ニ掲グル。

軍事公債應募金額

	一「マルク」乃至五百「マルク」	五百「マルク」乃至一萬「マルク」	一萬「マルク」乃至十萬「マルク」	十萬「マルク」以上	合計
第一回	一四七百萬「マルク」	一、六一六百萬「マルク」	一、〇三二百萬「マルク」	一、六六五十萬「マルク」	四、四六〇百萬「マルク」
第二回	三二五	三、七四八	二、三一九	二、六六八	九、〇六〇

第三回	四九九	四、五三七	二、八七五	四、一九〇	一二、一〇一
第四回	六〇八	三、七四〇	二、三八〇	三、九八四	一〇、七一二
第五回	四四七	二、七五一	二、四四二	五、〇一一	一〇、六五二
合計					四一、九八五

卽チ一口十萬馬克以上ノ應募高ハ回一回ヲ重ヌル毎ニ激增シテ居ルガ、一口十萬馬克以上一萬馬克マデノ應募高ハ大體ニ於テ變化ナク、一口一萬馬克以上五百馬克マデノ應募高ハ第四回以後漸減シテ居ルシ、一口五百馬克以下一馬克ニ至ル應募高ニ至ツテハ第五回ニ至ツテ激減ヲ呈シテ居ル。之ハツマリ應募人員ノ場合ト同ジヤウニ、戰役ノ永引クニ連レテノ下層社會ノ疲弊ヲ談ルモノデハアルマイカ。（未完）